

科目名	化粧品学			ナンバリング	MED582	授業形態	講義
対象学年	4	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	1単位
代表教員	宮本達	担当教員					

授業の概要	化粧品(化粧品)は様々な化粧品原料により処方化され開発されている化学製品であるが、皮膚科学、薬学、微生物学、素材技術などの基礎科学を基盤として開発されている。化粧品は、一般的に科学的情報が不足しており、製品の選び方や品質の見極めが難しく、製品によっては肌トラブルが多い例もある。この講義では、化粧品の商品特性や処方設計、原料選択等、安全性、有用性などの基本的な考え方をはじめ、薬機法による化粧品の定義、規制等について解説する。また、化粧品に関する皮膚科学、薬理学などの研究分野、及び薬事法に関する周辺分野に関する基礎知識や、化粧品の市場やマーケティングの基礎についても解説する。更に、市販製品の配合成分調査、化粧品試作実習、皮膚官能テスト等の各種実習を通じて、化粧品の機能特性や役割について理解することを目標とする。
到達目標	1. 化粧品の商品体系や各種製品の特性について説明できる。 2. 化粧品の法的規制について薬機法に関連して説明できる。 3. 化粧品の原料の種類や特性、配合製品について概略の説明ができる。 4. 化粧品の安全性や有用性の考え方と評価方法について概略の説明ができる。
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	講義内容で理解が不十分な点や疑問点は、レジメの質問欄に記載し、提出する。次回講義にて、回答するのでその要点をノートに記録する。また、毎回の講義内容は、事前に参考書やインターネット情報により予習し、講義時に配布する資料で理解を深める。その他、市販されている製品の技術特徴や配合成分などについて日常的に関心を持って接することが重要である。
ディプロマポリシーとの関連	【薬学部薬学科のディプロマポリシー】
	1. 薬剤師の社会的義務を認識し、医療の担い手としてふさわしいヒューマンイズムと倫理観を具現できる。
	○ 2. 医療分野における問題点を発見して解決するために、研究マインドと知識を統合・活用する力を有する。
	3. 患者本位の医療を実施するために、チーム医療における円滑なコミュニケーションをとることができる。
	○ 4. 地域の医療および保健に貢献するために、薬剤師としての実践的能力を有する。
	○ 5. 薬剤師として科学と医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学習ができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①化粧品(化粧品、医薬部外品)の概要を説明できる。 ②化粧品の種類や機能の概要を説明できる。 ③主要な化粧品の配合成分について説明できる。 ④化粧品の薬機法上の法的規制の概要を説明できる。 ⑤化粧品の品質の概要を説明できる。 ⑥化粧品の安全性や有用性の概要を説明できる。 ⑦化粧品と皮膚科学の関係の概要を説明できる。	①化粧品の技術的発展、歴史的変遷について説明できる。 ②化粧品に使用される主要な配合技術について説明できる。 ③化粧品の配合成分の特徴、皮膚への効果について説明できる。 ④化粧品の進化と安全性について説明できる。 ⑤化粧品の機能・品質と製品としての価値について説明できる。 ⑥皮膚老化に与える要因と化粧品による対策について説明できる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○						30%
課題レポート	○	○					40%
授業態度・授業への参加	○						20%
発表・プレゼン							
実習							
出席			○	○			10%
その他							

課題、評価のフィードバック	1. 毎回の授業で実施する小テストについては、直後に解答を示し、解説する。 2. 毎回の授業に関連する質問については、次回以降の授業で回答し解説する。また、質問者の評価に反映する。 3. 毎回の授業に関する意見や感想は、次回以降の授業で紹介するとともに、質問者の評価に反映する。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考	
授業計画	第1回	化粧品概要と市場	化粧品・医薬部外品の種類と分類、市場における化粧品・医薬部外品の動向等について解説する。		
	第2回	化粧品と薬機法	化粧品に係る薬機法による定義、許認可に関わる制度、成分表示の規制等について解説する。		
	第3回	化粧品技術の概要	化粧品の配合成分、処方技術、皮膚科学、安全性・有用性評価技術等について解説する。		
	第4回	化粧品の安全性	化粧品や配合原料の安全性、評価方法、肌トラブル例、敏感肌の実態等について解説する。		
	第5回	化粧品と皮膚科学	皮膚の構造と役割、皮膚の保水機能、バリア機能、加齢に伴う変化等について解説する。		
	第6回	化粧品の配合成分と原料	化粧品・医薬部外品に配合される原料の種類、由来、配合目的と機能等について解説する。		
	第7回	化粧品の配合成分調査	化粧品の成分表示の薬機法による規制、製品機能と配合成分の傾向等について解説し、実際の化粧品の配合成分を調査する。		
	第8回	化粧品の製品概要	スキンケア化粧品、ヘアケア化粧品等の種類や特長、主要な配合成分等について解説する。		
	第9回	化粧品試作実習①	クレンジング、化粧水、乳液、クリーム、ジェル等の化粧品の処方試作実習を行う。		
	第10回	化粧品試作実習②	美容液、日焼け止め、リップクリーム・グロス、ファンデーション等の化粧品処方試作実習を行う。		
	第11回	化粧品試作実習③	実習①または②の化粧品処方、石けん、入浴剤等の処方試作実習を行う。		
	第12回	化粧品の有用性	化粧品の有用性の主要な項目、測定原理、測定方法、測定実例等について解説する。		
	第13回	総括及びその他	化粧品と経皮吸収、内外美容等について解説し、第1回～12回の授業の要因整理を行う。		
	第14回				
	第15回				
	試験	毎回の授業で小テストを実施するとともに、総括試験として課題テーマに関するレポートを提出させ、総合的に評価する。			
授業の進め方	毎回の授業で概要資料を配布するとともにスライドで内容説明を行う。授業内容について毎回数問の小テストを実施する。授業時にレジメ用紙を毎回配布し、質問感想等を記載の上提出させる。授業の終了時に課題を提示し、レポートを提出する。				
授業外学習の指示	毎回の授業内容について、参考書、インターネット情報等で予習する。講義内容については、講義説明と配布資料により理解を深め、理解が不十分な点や疑問点は、レジメの質問欄に記載し、提出する。次回講義にて、質問等について回答するのでその要点をノートに記録する。 (授業外学習時間： 毎週 30 分)				

教科書	
参考書	①化粧品科学ガイド 第2版, 田上八朗, 杉林堅次, 能崎章輔, 宿崎幸一, 神田吉弘 監修 フレグランスジャーナル社, 3,888円 (税込), ISBN 9784894791800 ②化粧品成分ガイド 第6版, 宇山悠男, 岡部美代治, 久光一誠 著, フレグランスジャーナル社, 3,240円 (税込), ISBN 9784894792548
参考URLなど	
その他	